



東京の会通信

No.327

2026年7月1日号
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会
〒101-0031 東京都千代田区
東神田1-3-4 KTビル3階
TEL：03-3866-8171
(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>
e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp
定価 100 円

今年のボランティアの集いは 東京都庁で開催

6月6日（土）に、全国骨髄バンク推進連絡協議会主催の「2026全国骨髄バンクボランティアの集いin東京」が、東京都庁の都民ホールにて開催されました。

小池百合子都知事のビデオメッセージを始めとする来賓の方々からのご祝辞、東京都、日本赤十字社、日本骨髄バンクそれぞれからの報告、移植を受けて復活したアスリート2名の体験談、血液疾患患者の在宅医療に取り組む元白血病患者の医師のお話しなど、盛りだくさんの内容でした。最後は小学生から社会人までのメンバーによる「西新宿和太鼓チーム 十二奏」の力強い和太鼓演奏で終了しました。参加した会員の感想をご紹介します。

東京開催で感じた行政との関係強化の手応え

今年度のボランティアの集いin東京が6月6日新宿の都庁議会棟で開催されました。全国協議会のイベントが東京都の施設で開催されるのははじめてです。これについては東京の会との関わりも後で少し触れたいと思います。

今回、私は来賓のご祝辞を聞いていて、具体性を帯びていたことが従来の内容と大きく変わったことだと理解しています。

特に、配布資料に掲載されている都知事のご挨拶には、東京の会もその実現に取り組んだ「ドナーとその勤務先に助成」と具体的に記されています。また、ドナー登録会と説明員養成講座の開催について、「骨髄バンクを支援する東京の会」のお力添え、と団体名が記されています。これらの評価はいろいろあるものと思いますが、私は行政との関係が今まで以上に深まりつつあると実感しました。もちろん、東京の会の活動などもこのベースにはあることを確信いたしました。

また、来賓ご挨拶では、ドナー登録について、若年

層の登録者を増やしていくことが今後の焦点となっていることについて、共通の認識となっていることが確認できたと思います。



和太鼓チーム「十二奏」による迫力ある演奏

第3部の命のパトシリレーでは、病気を克服した2人のアスリートと在宅医療に取り組む医師の、澁瀬とした生活と日々の活動に、改めて力をいただいた気がいたします。骨髄バンクと移植医療のさらなる充実のため、今後のご活躍を大いに期待しています。

最後の盛り上げに、西新宿和太鼓チームの力強い太鼓の響きは、骨髄バンク・移植医療について、将来にわたって響き続けるような迫力がありました。メンバーも大人から、小学校低学年までの構成で、ドナー登録会など骨髄バンクの活動にも元気を与えてくれたのではないかと思います。

最後に、今回の会場となった議会棟は、創立間もない時期の東京の会総会とイベントが行われ、その

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (令和8年5月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	564,369	71,499	73,786
4-5月登録分	5,151	538	428
4-5月抹消数	4,937	618	—
実質登録増	214	▲80	—

患者とドナー登録・適合状況(5月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	1,030,525人
ドナー登録抹消者数(累計)	466,156人
HLA適合報告ドナー数(累計)	411,915人
実質登録患者実数(現在)	1,775人(国内1,244人)
HLA適合患者数(累計)	58,586人(患者累計数の79.4%)
非血縁移植実施数	30,709例(4-5月実施170例)

後、疾病対策課とのコンタクトが取れにくい時期もあり、実に30数年ぶりの会場使用ではないかと思えます。疾病対策課も初めて参加し、東京都の活動について報告する機会となりました。「東京の会」のたゆまぬ活動が大きな貢献をしたことに自信をもって、行政とも、より一層の協力関係を築き進んでいけるより良い状況をこれからも作っていかうではありませんか。

雑文ながら、「ボランティアの集いin東京」に参加した感想です。全国協議会の役員をはじめ、関係者の皆様、地方から上京し参加した多数の会員の皆様、ご来賓の皆様、ご出演いただいた皆様ありがとうございました。（三瓶和義）

病気を乗り越えた二人のアスリートの体談を聞いて

6月6日、東京都庁の都民ホールでの2026全国骨髄バンクボランティアの集いin東京に参加しました。今回は、白血病を乗り越えてそれぞれの競技を続けているお二人のアスリートが来るということでとても楽しみにしていました。

1人は村崎誠さん。この方はバドミントンの実業団チームの主将として、活動中に急性骨髄性白血病と診断され、さい帯血移植により命を救われました、その

後きちんとリスクマネジメントをした上でのリハビリを行って、バドミントンを再度できるようにになり、全国移植者スポーツ大会に出場し、そこからさらに世界移植者スポーツ大会にまで出場し、金メダル銀メダルを獲得するところまでになりました。さらにその中で家庭生活においては移植前に凍結保存していた精子を使って3人目の子供さんまで生まれています。

2人目は、松岡一成さん。この方は25歳で白血病と診断され、27歳で骨髄バンクを介して骨髄移植を受けています。その後、リハビリとしてバスケットボールを再開し、今は3人制バスケットボールの選手として国際大会にも出ています。今は骨髄バンク登録説明員としても活躍し、自分の経験を講演活動を通じて若い人たちに伝えています。松岡さんも同じように治療を受けながら、2人の子供さんを授かり育てています。

白血病になっても、今はスポーツができるところまで回復できるということを、体験者から話が聞けてとても元気付けられました。（竹崎恵子）



移植を受けて競技に復活した村崎誠さん（左）、松岡一成さん（右）

ジャパンキャンサーフォーラムに参加します

ジャパンキャンサーフォーラムは、年に一度行われるがん患者や家族のための日本最大級のがんフォーラムです。

2日間にわたり、各専門分野の医師などによる多数の講演や、参加型プログラム等が開催されます。

東京の会は神奈川・埼玉の会とともにブースを出展して骨髄バンクとボランティア団体のPRを行ないます。

ぜひみなさん足をお運びください。

日時：2026年8月8日（土）・9日（日）

会場：文京シビックセンター 地下2階～3階

主催：認定NPO法人キャンサーネットジャパン

詳しくはこちら



骨髄バンク チャリティコンサート

今年も秋のピアノ三重奏コンサート「響HIBIKI」を開催します。

日時：2026年11月23日（月祝）

15時開演

会場：求道会館（東京都文京区）

出演：三戸素子（ヴァイオリン）、

小澤洋介（チェロ）、

高田匡隆（ピアノ）

詳しくは同封のチラシをご覧ください。

9月会報発送

「おりおり」のお知らせ

日時：9月6日（日）14時より

※発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。

※最新情報を東京の会ホームページ等でご確認の上、お越しください。

場所：全国協議会事務所（千代田区東神田1-3-4 KTビル3階）

交通：都営新宿線「馬喰横山」駅 徒歩5分

都営浅草線「東日本橋」駅 徒歩7分

東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅 徒歩7分

JR総武快速線「馬喰町」駅 徒歩5分

※11月「おりおり」予定 11月8日（日）14時より

※今お読みいただいている「東京の会通信」を折り、封入・発送する作業です。簡単でどなたにでもできる作業です。いつも人手が不足しています。どうかご協力をお願いいたします。

弟のドナーは兄、見守る母親からのメッセージ

小野田京子さん

2012年12月、野球少年の次男(中学1年)が発熱しました。次男は野球の練習がさぼれると布団の中でにやにやしながらスマホを見て過ごしていました。ところが1週間以上微熱が続き、かかりつけの病院で血液検査を実施したところすぐに大学病院を受診するようにと連絡がありました。

翌日、順天堂大学病院の小児科を受診しましたが、某大学病院を紹介されすぐに小児科病棟の個室に入院となりました。その時点では、病名を告知されず親子ともども事の重大性に気付いておらず、待ち時間に次男の大好きなネギトロ丼を食べ、年末の家族旅行について話をしておりました。

入院してすぐに骨髄検査を実施した際に、医師よりネギトロ丼を食べたことを非難され、麻酔をかけることができずに骨髄検査をされました。(のちに、治療中は「なまもの」は厳禁であること、骨髄検査の際、麻酔をかけるためには食事を抜かないといけなかったことを知りました)

夜になって医師より次男が白血病であると告げられ、5年生存率60%以上、半年で退院できると説明がありました。しかし、1ヶ月の治療後、医師からは「治療の効果がなく遺伝子検査を実施させてほしい」と説明がありました。遺伝子検査の結果、近年発見された新種の白血病で、治療方法も未知の状況で5年生存率20%以下である告げられました。我々夫婦は、とにかく先生と次男の生命力を信じるしかありませんでした。

以前TVで「笑いは免疫力を上げる」と放送されていたのを思い出し、毎日レンタルビデオ屋でお笑いのビデオを借りてきては病室で次男と笑うことを心がけ免疫力を高めるよう努めました。

移植に向けて家族全員の白血球の型HLAの検査を実施しました。兄弟間でも1/4の適合率と伺い、結果がでるまでは不安な日々を過ごしました。その後、夫、私、長男の3人ともHLAがマッチしたと医師より報告をいただいたときは本当に嬉しかったです。

しかし、主人は癌経験者、私は次男よりも身体が小さいため十分な量を採取できないことを理由に、長男(高校2年)が末梢血幹細胞提供をすることになりました。病院の先生方には長男の学業、部活に支障が出ないように入院日等を配慮していただきました。

長男の入院中は次男のベッドの隣に長男のベッドをぴったりと寄せてもらえ、病室には毎晩、家族四人が揃い、笑い声がたえませんでした。入院中の面会は主人と私に限られていたため、久しぶりに大好きなお兄ちゃんに会えたのが本当に嬉しかったようで次

男が無邪気にはしゃいでいました。

次男はベッドの上での生活が長かったため、足腰が弱り車椅子の生活を送っていました。一人ではトイレに行くこともできない状態でしたが夜中のトイレも長男が付き添ってくれたそうです。はしゃぎすぎて転んで、看護師さんや先生方に怒られたそうです。

長男は小さいころから注射が大嫌いです。しかし次男の為に6時間以上に及ぶ採取に黙って耐えてくれました。本当に感謝しかありません。採取当日は家族総出で、主人が長男の付き添いをし、両手がふさがっている長男の世話をしてくれました。私は次男の付き添いをし、無事に採取が終わることを祈りながら過ごしました。

2013年5月、長男の造血幹細胞を次男に移植しました。長男のおっとりした性格のせい(笑)、生着には予定よりも時間がかかりましたが、9月、無事に退院することができました。次男の強い希望と中学校の先生方、クラスメイトのご理解、ご協力もあり退院3日後から少しずつ中学校に通学し、約1ヶ月後の文化祭ではクラスの人々と立派に合唱を披露してくれました。人生で一番感動した次男の晴れ舞台でした。

2020年1月、成人を祝う会では、当時の私たち親子を支えてくださった中学校の先生方も参加されました。担任の先生、野球部の顧問の先生も次男が成人を迎えられたことに、感慨深いと喜んでくださいました。

現在、次男は26歳、仕事やプライベートも充実した生活を送っています。また私も心から安心しています。そんな時、東京都の骨髄バンクの説明員ボランティア募集を目にしました。当時、同じ病棟に様々な血液疾患の子供が入院していたことを思い出しました。さい帯血移植で早々に退院する子、日に日に病状が悪化して個室に移動してゆく子、複雑な思いを抱えつつ過ごしていた日々、家族間でHLA型が一致したときの喜び、様々な思いがよみがえりました。

そこで私も説明員になり活動することでドナー登録者を一人でも増やし、患者さんやその家族に希望を届けたいと決意しました。現状、骨髄バンクを介して移植を希望する患者さんのうち、6割しか移植ができていません。いつか移植を希望する患者さん全員が移植できるようになることを祈念し活動を続けていきたいと思っています。



次男の成人式に家族4人で

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2026.4.16～6.15)

高橋いづみさん 2,000円／小松崎辰哉さん 2,000円／三瓶和義さん 7,000円／水流正秀さん 7,000円
 王城彩子さん 7,000円／柴谷春子さん 10,000円／東井朝仁さん 7,000円／秋山祐一さん 7,000円
 高澤敬太さん 7,000円／比嘉由子さん 7,000円／橋爪由里さん 2,000円／柴山泉さん 5,000円
 水野曉子さん 7,000円／若林秀子さん 10,000円／村上順子さん 2,000円／大貫洋二さん 7,000円
 入倉延利さん 10,000円／衣川千代子さん 2,000円／山崎治夫さん 7,000円／大谷偕子さん 1,000円
 柴谷みち子さん 2,000円／森永富美子さん 7,000円／おばこ募金箱 堀裕子さん 11,400円
 梅丘Bar 一三募金箱 大橋一三さん 31,851円

お寄せいただいたご寄付から、年会費を差し引いて掲載させていただきました。

編集者 雑記



▼「2026全国骨髄バンクボランティアの集いin東京」の翌日、6月7日(日)に「全国骨髄バンク推進連絡協議会2026年度通常総会」が開催されました。全国協議会に加盟しているボランティア団体の代表者が出席し、2025年度事業報告・決算報告、2026年度事業計画・予算案などすべての議案が承認されました。

▼通常総会の後は「情報交換会」として、各地団体からの活動報告とグループディスカッションが行われました。グループディスカッションでは6チームに分かれて「①若年骨髄ドナー登録拡大のための方策」「②ボランティア団体として活動をするための方策」について、現状の課題と打開策を話し合いました。

▼若年ドナー登録拡大については、SNSやYouTubeの活用、大学等での登録会の拡大、小学校・中学校・高校での骨髄バンクについての授業実施などの方策が出されました。一方でこうした活動を進めるうえで、ボランティアの担い手不足が各地団体の悩みになっています。特に若いボランティアを確保することが同世代の登録推進に大きな力になるため、献血推進サークル

など学生ボランティアとの連携を進めているとの報告もありました。

▼日本における骨髄バンクドナー登録推進は、実質的に全国のボランティア団体が担っているといっても過言ではありません。しかしボランティア団体だけの力では限界があります。国や地方公共団体の政策、日本骨髄バンクや日本赤十字社など関係機関の取り組みの充実が必要です。

▼「情報交換会」では、「骨髄・さい帯血バンク・献血推進議員連盟」が昨年12月に行なった決議に対する厚生労働省の進捗報告が配布されました。その中では、住所不明者解消のための対応策として、SMSを活用した住所変更依頼やSNSによる情報発信、日赤の検血者データとの連携などが報告されています。

▼若年層ドナー登録拡大については、大学等の教育機関における登録会の推進、スワブによるオンライン登録の導入、またドナーが提供しやすい環境づくりとして、企業におけるドナー休暇制度の導入促進や学生がドナー候補となった場合の教育上の配慮、地方自治体によるドナー助成制度などがあげられています。

▼行政や関係機関においては、今後ともこれらの政策を着実に進めるとともに、国や中央レベル、地方レベルでボランティア団体との協議や連携を深め、課題の洗い出しと実効性のある対策の実施を求めたいと思います。(S)

東京の会 「7月、8月定例会」 のお知らせ

7月18日(土)午後5時30分より 8月15日(土)午前5時30分より

会場：全国協議会事務所（千代田区東神田1-3-4 KTビル3階）
 交通：都営新宿線「馬喰横山」駅 徒歩5分
 都営浅草線「東日本橋」駅 徒歩7分
 東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅 徒歩7分
 JR総武快速線「馬喰町」駅 徒歩5分

定例会は、現地会議室集合以外に、オンライン(Zoom)での参加も可能です。

ボランティアの運動にも資金が必要です。東京の会に活動資金のカンパを！

郵便振替口座番号 **00100-1-555195**

他銀行から振込みの場合 ゆうちょ銀行(9900)／〇一八支店(018) 普通口座No.4180512

加入者名義 骨髄バンクを支援する東京の会